# 障害のある子ども 力合わせ歌と演奏

## 愛知淑徳大生企画 音楽会

## 日進の放課後デイ オンラインで結ぶ 鑑賞の保護者ら

障がいのある子どもたちが日ごろの成果を発表する「春のオンライン音楽会」が、長久手市の愛知淑徳大で開かれた。自閉症やダウン症などのある子どもたちが力を合わせて、歌やハンドベルで3曲を披露。会場には約20人の保護者らが集まり、子どもたちの演奏に聞き入っていた。（宮下爽）

子どもたちの演奏を画面を通して見守る保護者ら＝長久手市の愛知淑徳大で

音楽会は同大の学生団体「しゅくぐる」による企画。しゅくぐるは、日進市浅田平子のNPO法人「じゃんぐるじむ」が運営する放課後デイサービスに通う知的障害などがある子どもたちと週1～2回交流している。

子どもたちは情操教育の一環などで日ごろ歌やハンドベルに取り組んでいるものの、発表する場がなかった。保護者らにも見てもらおうと初めて計画。子どもたちは夏休みごろから半年以上かけて練習を重ねた。

3月18日の音楽祭当日。普段と環境が違うことで混乱しないよう配慮し、子どもたちはいつも通り日進市の放課後デイサービスの場所で演奏。長久手市の会場とオンラインでつなぎ、保護者らはスクリーンの前で鑑賞した。

演奏には小学1年から中学3年までの約20人が、それぞれできる範囲で参加した。1曲目にアニメソング「夢をかなえてドラえもん」を合唱。2曲目にハンドベルで合唱曲「Believe」を演奏し、最後に童謡「ありがとうの花」を歌った。

曲の間には練習に励んだ様子の映像も流れた。息を合わせて全力で演奏する様子に、涙ぐみながら画面を見つめる保護者も見られた。小学3年の男児の母親は「ちゃんとみんなと音を合わせて演奏していて、『大きくなったな』と感動した」と声を詰まらせた。

しゅくぐるのメンバーで大学2年の高木葉香さん(20)は「お母さんたちが見ているからか、いつもより生き生きしているように見えた。保護者の方にも見てもらえてよかった」と話した。

2026年4月4日（土）中日新聞 17面より

この記事は中日新聞社の承諾を得て掲載しています。